



# 平成24年4月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年9月6日

上場会社名 株式会社 ロック・フィールド  
 コード番号 2910 URL <http://www.rockfield.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩田 弘三  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部部长 (氏名) 伊澤 修  
 四半期報告書提出予定日 平成23年9月13日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東大

TEL 078-435-2800

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成24年4月期第1四半期の業績(平成23年5月1日～平成23年7月31日)

### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年4月期第1四半期	12,054	6.2	567	8.6	569	8.1	308	31.3
23年4月期第1四半期	11,351	—	522	—	527	—	234	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年4月期第1四半期	23.22	—
23年4月期第1四半期	17.68	—

### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年4月期第1四半期	27,722	21,662	78.1
23年4月期	28,096	21,643	77.0

(参考) 自己資本 24年4月期第1四半期 21,662百万円 23年4月期 21,643百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年4月期	—	18.00	—	22.00	40.00
24年4月期	—	—	—	—	—
24年4月期(予想)	—	18.00	—	32.00	50.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成24年4月期の業績予想(平成23年5月1日～平成24年4月30日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	24,146	5.9	1,044	16.6	1,055	15.4	571	22.4	43.06
通期	50,086	8.1	2,500	19.7	2,534	19.5	1,330	23.4	100.19

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

#### 4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年4月期1Q	13,394,374 株	23年4月期	13,394,374 株
② 期末自己株式数	24年4月期1Q	113,303 株	23年4月期	113,303 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年4月期1Q	13,281,071 株	23年4月期1Q	13,281,041 株

#### ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項 .....	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期財務諸表 .....	5
(1) 四半期貸借対照表 .....	5
(2) 四半期損益計算書 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期累計期間（平成23年5月1日～7月31日）における日本経済は、東日本大震災による自粛ムードが和らぎ消費マインドが回復基調にあるものの、原発事故の影響に始まる電力の使用制限、欧米をはじめ海外景気の下振れ等により先行き不透明な状況が続きました。また震災の影響で混乱していた生産・物流のサプライチェーンの立て直しが進んだものの、食品業界におきましては、農産、畜産、水産において放射能汚染の風評被害が懸念されるなど、業界を取り巻く環境は依然として厳しいものとなりました。

このような環境下におきまして、当社は全社を挙げた業務改革や“KAIZEN”の取り組みを継続して行い、生産性向上と経費コントロールによる収益体質の強化を図ってまいりました。また事業計画の3本柱である「サラダカンパニー事業戦略」「食育の実践と提案」「お客様満足100%の推進」の実現にも継続して取り組んでまいりました。

「サラダカンパニー事業戦略」としては、パックサラダの品質改善や強化に努めました。また「食育の実践と提案」として、昨年6月から今年6月まで13ヶ月に亘り継続していた「SHOKU-IKU新聞」の店頭配布や高島屋で行われた「びっくり！エコ100選」での食育セミナー等、食育活動の情報発信に努めました。さらに「お客様満足100%の推進」のため、商品情報の提供や商品の鮮度、美味しさの更なる向上に取り組みました。

この結果、当第1四半期累計期間における業績は、売上高は12,054百万円（前年同期比6.2%増）、営業利益は567百万円（前年同期比8.6%増）、経常利益は569百万円（前年同期比8.1%増）、四半期純利益は308百万円（前年同期比31.3%増）となりました。

ブランド別の売上は以下のとおりであります。

業態		平成23年4月期 第1四半期		平成24年4月期 第1四半期		対前期比
		売上	構成比	売上	構成比	
R F 1	サラダ	百万円 5,152	% 45.4	百万円 5,239	% 43.5	% 101.7
	フライ	1,618	14.2	1,660	13.7	102.6
	その他そうざい	2,154	19.0	1,900	15.8	88.2
	小計	8,925	78.6	8,800	73.0	98.6
神戸コロッケ		976	8.6	975	8.1	99.9
いとはん・三日坊主		609	5.4	797	6.6	131.0
R F 1 A s i a ・融合		199	1.7	166	1.4	83.6
ベジテリア		486	4.3	513	4.3	105.6
グリーングルメ		—	—	758	6.3	—
その他		155	1.4	41	0.3	27.0
合計		11,351	100.0	12,054	100.0	106.2

主なブランド別の概況は次のとおりであります。

「R F 1」ブランドにおきましては、更なる品質向上を目的に旬の素材を活用した定番商品のブラッシュアップに取り組みました。また『海藻とじゃこのカルシウムたっぷりサラダ』等の健康を意識したサラダが定着し、フライ商品では『北海道産の帆立フライ』等が好調に推移しました。料理では『ハーブオイルで食べるチキンのカツレツ』等、新しいパンソテーの取り組みを始めました。その結果、売上高は8,800百万円（前年同期比1.4%減）となりました。

「神戸コロッケ」ブランドにおきましては、コロッケ専門店として今期も『じゃがいもコロッケ』『肉じゃがコロッケ』等の定番コロッケに改めて注力し、ますますご愛顧いただける商品となるよう拡販に努めました。また旬の素材を使用した季節コロッケを展開し、売場に変化を加えました。その結果、売上高は975百万円（前年同期比0.1%減）となりました。

「ベジテリア」ブランドにおきましては、昨年6月より販売を開始した通常の野菜ジュース以上に野菜量を充実させた濃厚ジュースが好調に推移し、更に固定客の増加を図ることが出来ました。また、5月から新たに「美人ジ

ューズ」シリーズを展開し、「紫外線対策」「むくみ防止」等、季節に応じた女性の悩みに効果を発揮する栄養素を含んだジュースを提案し、若い女性を中心とした新規顧客を獲得することができました。その結果、売上高は513百万円（前年同期比5.6%増）となりました。

「いとはん・三日坊主」ブランドにおきましては、旬の野菜の季節感・鮮度感をいかした「日本のさらだ」が好調に推移し、従来の定番商品に加え『アボカドと沖縄島豆腐の和さらだ柚子胡椒風味』等、新たな定番につながる商品を企画し、よりお客様にご愛顧いただけるブランドへと成長してまいりました。また「日本のさらだ」のパートナーとして『季節魚の甘辛揚げ』等、「揚げおかず」を中心とした料理カテゴリーの強化を行い、素材を活かし四季折々の味を取り入れた食卓提案につながる品揃えの構築を行いました。その結果、売上高は797百万円（前年同期比31.0%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する定性的情報

当第1四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末と比べて374百万円減少し、27,722百万円となりました。これは、主に現金及び預金の減少543百万円、売掛金の増加373百万円、有形固定資産の減少55百万円等によるものであります。

一方、負債合計は、前事業年度末と比べて393百万円減少し、6,059百万円となりました。これは、主に法人税の支払による未払法人税等の減少395百万円、賞与引当金の減少225百万円等によるものであります。

純資産合計は、前事業年度末と比べて18百万円増加し、21,662百万円となりました。これは、主に四半期純利益308百万円、配当金の支払による利益剰余金の減少292百万円等によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は78.1%、1株当たり純資産額は1,631円07銭となりました。

## (3) 業績予想に関する定性的情報

平成24年4月期における四半期毎の計画の推移につきましては、平成23年6月9日に発表いたしました平成23年4月期決算短信における「1. 経営成績 (1) 経営成績に関する分析 ②次期の見通し」で開示した当第1四半期の計画から実績が大きく上回ったこともあり、平成24年4月期第2四半期累計期間における期初予想（平成23年6月9日公表）の修正を行い、平成24年4月期通期業績予想については見直さないものの四半期毎の計画については見直しを行っております。

### (四半期毎の計画の推移)

(単位：百万円)

	第1四半期		第2四半期	第3四半期	通期
	実績	当初見通			
売上高	12,055	11,563	12,091	13,518	50,086
営業利益	567	273	477	926	2,500
経常利益	570	282	485	939	2,534
当期純利益	306	143	265	524	1,330

平成24年4月期第2四半期累計期間における期初予想につきましては、東日本大震災発生以降の急激な消費マインドの冷え込みなどによる個人消費の減退や電力供給不足による節電対策における店舗営業時間の短縮要請などの影響を考慮しており、既存店における売上高の維持が困難であると判断しておりましたが、消費マインドの緩和や節電対策による店舗営業時間への影響が当初の想定より小さかったことなどにより、平成24年4月期第1四半期（平成23年5月～7月）における売上高は想定を上回る状況にて推移いたしました。また原材料価格が期間を通じて安定していることや原価や販売費及び一般管理費において経費コントロールを行っていることなども踏まえて、平成24年4月期第2四半期における業績予想に関しましては売上高及び利益について期初予想を上回る見通しとなり、平成24年4月期第2四半期累計期間における業績予想を修正いたしました。

第3四半期以降につきましては、個人消費の動向や期初においては想定になかった冬季期間における電力供給不足の可能性、原材料に対する原発問題による放射能汚染問題の長期化による様々な課題があり、事業環境の先行きは厳しい状況が続くものと判断しております。当社といたしましては期初予想を据え置くこととし、当初の第3四半期、第4四半期における業績予想を修正しております。

なお、事業環境の変化などによる今後の業績推移に応じて、予想数値と重要な乖離が見込まれる場合には速やかに開示を行う方針であります。

## 2. サマリー情報（その他）に関する事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
  
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年4月30日)	当第1四半期会計期間 (平成23年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,645	7,102
売掛金	3,767	4,140
製品	64	60
仕掛品	74	62
原材料及び貯蔵品	204	138
その他	543	521
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	12,299	12,024
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	7,694	7,617
土地	2,948	2,948
その他（純額）	2,347	2,368
有形固定資産合計	12,989	12,934
無形固定資産	387	402
投資その他の資産		
その他	2,430	2,370
貸倒引当金	△10	△10
投資その他の資産合計	2,420	2,360
固定資産合計	15,796	15,697
資産合計	28,096	27,722
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,193	1,234
1年内返済予定の長期借入金	328	297
未払法人税等	538	142
賞与引当金	485	260
その他	2,760	3,046
流動負債合計	5,306	4,981
固定負債		
長期借入金	466	405
その他	679	672
固定負債合計	1,145	1,077
負債合計	6,452	6,059

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年4月30日)	当第1四半期会計期間 (平成23年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,544	5,544
資本剰余金	5,861	5,861
利益剰余金	10,436	10,452
自己株式	△208	△208
株主資本合計	21,632	21,649
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	10	13
評価・換算差額等合計	10	13
純資産合計	21,643	21,662
負債純資産合計	28,096	27,722



(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期累計期間 (自平成22年5月1日 至平成22年7月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成23年5月1日 至平成23年7月31日)
売上高	11,351	12,054
売上原価	4,845	5,066
売上総利益	6,506	6,988
販売費及び一般管理費	5,983	6,420
営業利益	522	567
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	2	3
その他	4	4
営業外収益合計	8	9
営業外費用		
支払利息	3	2
障害者雇用納付金	—	4
その他	0	0
営業外費用合計	4	7
経常利益	527	569
特別損失		
固定資産除却損	14	11
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	64	—
特別損失合計	78	11
税引前四半期純利益	448	558
法人税等	213	250
四半期純利益	234	308

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。